



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター

【小林市社会教育課】Tel.22-7912
【小林商工会議所】Tel.23-4121

教育フォーラム(7月31日)のアンケートで、「キャリア教育への理解が深まった」とか「今後の授業で活用したい」という肯定的評価(※)は、どちらも95パーセント以上でした。

※ とても思うと思う+どちらかといえば思う

感想を読ませていただき、変化を感じるたくさんの方の言葉に出会いました。「挑戦する大人」「固定観念を捨てて」「職員全員で子どもたちに背中を見せる」「子どもを変える前に大人が変わる」「新しいことを受け入れるゆとりとチャレンジする気持ち」などの一言に、先生方の前向きな姿勢を感じました。

「具体的な実践が共有化できると、こすもす科の内容がさらに深まり、新たな視点での教育活動が展開できると感じました」というご意見もあり、先生方の参考になる取組を今後も紹介して、いきたいと思います。

さて、トークセッションの中で9年前の課題と方向性を紹介し、「変わった? 変わらない? 皆さんの学校は?」との問いかけをしました。変わらない要因を考えてみると...

- ◇ 課題や方向性が校内で共有されていない。
- ◇ 課題や方向性の内容が、毎年繰り返されている。
- ◇ 課題克服のための第一歩が踏み出せていない。

このようなことが考えられるでしょうか。

今年度も実践記録をまとめます。今ある活動にキャリア教育の視点を取り入れ、児童生徒の活躍の場を広げるなど、変化を感じる取組が生まれるよう願っています。

紙屋中 平和学習「朗読劇」



実際の出撃の写真



帽子を振っているのがお父さん

【あらすじ】遺書が届き、息子の最後の様子が知りたいと、父親は知覧基地に向かいます。しかし、死んだと思っていた息子は、機体の故障で引き返し、明日改めて出撃することになっていました。父子は最後の夜を語り合って過ごします。翌日、息子は軍刀を父に遺して出撃。戦死しました。

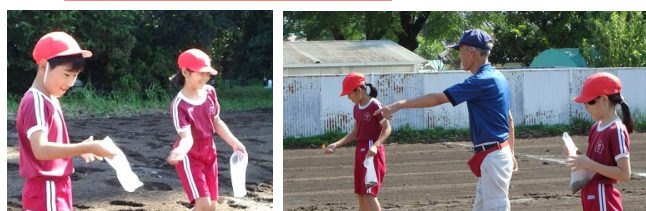
終戦後、武器の供出を免れるため、父親は遺品の軍刀を真っ二つに折ります。武器ではなくなった形見の軍刀は、今も、実家で大切に保管されています。

延岡市出身の特攻隊員、黒木少尉の実話を基にした朗読劇「蒼天の向こうへ」です。演じたのは、サラムやざき(声優・俳優スクール)の皆さん3名。迫力いっぱいに演じられる朗読劇を、生徒たちは最後まで真剣な表情で鑑賞していました。

【劇団員】戦争はどうして起きたのか、なぜしなければならなかったのか、興味をもってください。

【生徒代表】当時の人々の思いを想像していました。戦争について考えることは今後に関わると感じます。

細野小 そばの種まき

4年生


細野地区営農組合(瀬戸山会長)とJAこばやしの協力で、細野保育園横の畑で、園児も参加して行われました。

子どもたちは地域の方に教えてもらいながら、手の甲を下に向け、種が指の間からこぼれ落ちるようにまき、15分ほどで終わりました。

そばは非常に生長が早く、2~5日で発芽します。細野小では10月中旬に花の観察会(スケッチ大会)を行い、11月20日頃に収穫の予定です。

【瀬戸山会長】スケッチ大会では賞状も準備します。いい絵を描いてください。

【児童あいさつ】初めてだったので、楽しかったし、うれしかったです。ありがとうございました。

永久津小 租税教室

6年生


講師は宮崎県 小林県税・総務事務所のお二人。講話とアニメを通して、税金の種類と役割、もし税金がなかったらなど、身近で基本的なことを学習しました。

6年生の租税教室は各小学校で行われており、税理士事務所や小林税務署、市の税務課、小林法人会などに協力をいただいています。

裏に続きます。

細野中 生涯学び続けるための学習



「なぜ学ぶのか」に続く2回目の授業です。担当は大塚先生。オンラインで行いました。

授業の流れは…

① 予測困難な時代に必要な能力について話し合い、学級ごとに発表しました。② 「2007年生まれの107歳まで生きる確率が50%」という情報を受け、学ぶことの意味を考えました。③ 80歳で宮崎東高校通信制課程を卒業した女性を紹介したテレビ番組を視聴し、感想をまとめました。④ 全校生徒が10グループに分かれ、感想を共有しました。

【3年生の感想より】 ◆ 学ぶことは何歳からでもいいのだなと思った。 ◆ 今、学べることは当たり前じゃないんだと思いました。学ぶことの大切さや大変さについて、改めて深く考えることができました。

◆ 何歳になっても、学ぼうとする意欲があれば勉強を続けてもいいことが分かりました。 ◆ 77歳で高校に入学するのは、勇気がいることだと思った。 ◆ 分かるまで質問しているのがすごいと思った。

教育フォーラムでの大工原さんの講演に通じる内容でした。VUCAの時代に関する授業の一例として紹介しました。

永久津中 手話講座

3年生



【講師】真方さん(左)と岡元さん
手話サークル「木の実会」



主な内容は、聞こえない人の生活・伝える方法・簡単な手話・指文字・自己紹介。今回の授業は実践的な内容が中心で、説明の後に個人やペアでの練習時間を長く取っていました。繰り返し練習したおかげで、自己紹介も全員が上手にでき、「身に付いている」と感じました。

これまでに、実技を伴う活動を数多く参観していますが、説明が長くて実際にやってみる時間が短いこともあります。学校の規模にもよりますが、子どもたちが活動する場面をできるだけ増やす工夫が望まれます。

その為にも、活動の目的を明確にして、外部の指導者に学校の希望を伝えることが大切です。「毎回、このようにやっているのだから…」ではなく、各学校の特色ある取組に期待しています。

西小林小「鎌之手踊り」の練習

3年生



【歴史】明治2年(1869年)、鹿児島から西小林に移住した人々が、数少ない娯楽の一つとして、苦しい開拓の合間に鎌之手踊りを踊り継いできました。100周年記念式典でも踊られ、数年前までは、

地区の敬老会などで子どもたちが踊ることもありましたが、今は途絶えています。

11月の創立150周年記念式典での復活をめざして、3年生が取組を始めました。

講師は50年前の式典でも踊った東成也さん。「えびの市の岡元や他の地域にも『鎌踊り』の名前で伝わっています」など、踊りの由来についてお話してくださいました。その後、8名の児童が昔の映像を見ながら踊ってみました。

「50年前に踊ったメンバーで生きているのは私だけです」と東さん。継承の難しさを感じながらも、これから練習に取り組む3年生に大きな期待を寄せていました。

東方小 ふれあい交流

2年生

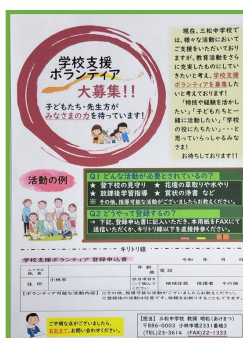
こすも支援学校2年生との交流会。進行は東方小児童



定期的に行っている学年ごとの交流会です。20分間、自己紹介やふれあい遊び、歌を一緒に楽しみました。教室は、両校の子どもたちの元気な声と笑顔でいっぱい。体全体で楽しさを表現していました。感想

の時間には「楽しかったです」「また一緒に遊びたいです」などの声がたくさん聞かれました。

三松中 ボランティアの募集



左は三松中が地域に配ったボランティア募集のチラシです。先生方の要望で、登下校の見守り、花壇の草取りや水やり、放課後学習指導、賞状の浄書などがあり、「その他、指導可能な活動がございましたらお教えください」と書かれていました。

各学校のボランティア募集の状況を調べています。